

みんなで21世紀の未来をひらく

教育のつどい

教育研究全国集会 2012 in 兵庫

教育のつどい 概要

開会全体集会

8月17日(金) 12:30~15:20

神戸国際会館こくさいホール

神戸市立兵庫商業高校 吹奏楽部の演奏

高校生タレント 藤波 心さんのトーク

挨拶 茂木俊彦 実行委員会代表委員

船寄俊雄 現地実行委員長

記念講演 脚本家 渡辺あやさん

「作ること、学ぶこと」

教育フォーラム (7会場)

8月17日(金) 16:15~19:00

分科会 (29分科会)

8月18日(土) 10:00~18:00

8月19日(日) 9:30~16:00

レポート数

約380



オープニング 神戸市立兵庫商業高校吹奏楽部

高教組は、兵庫教組、市高、私教連、兵庫労連、退職教職員、新婦人等とともに現地実行委員会の一翼として、教育のつどいの成功のため重要な役割を果たしました。また、このつどいを高教組の組織強化・拡大の機会と位置づけ、本部・支部・分会と一体となつて奮闘しました。

青年教職員の参加も追求し、青年部を中心に全国の青年教職員との交流にも大きな役割を果たしました。

右翼をはじめとするさまざまな妨害をはね返し、神戸市内の各会場で開催された分科会と教育フォーラムおよび分科会を成功させたことは、兵庫の民主勢力の底力を示すとともに、私たちの大きな確信となりました。

また、全体集会での渡辺あやさんの講演や高校生の吹奏楽演奏、高校生タレントの藤波心さんのトークは、誠実かつ斬新なもので参加者の心を大



発行所
神戸市中央区北長狭通5-2-10
兵庫県高等学校教職員組合
TEL 神戸(341)6745-6747
E-mail
honbu@hyogo-kokyoso.com
http://www.hyogo-kokyoso.com

発行人 兵庫県高等学校教職員組合中央執行委員長
雨松 康之
編集人 松岡 敦之

定価 1部 20円
半年分 120円
組合員の購読料は組合費含め徴収

教育のつどい 特集号

大きく打つものとなりました。さらに、兵庫の高校生が多数事前の準備を重ねて特別分科会に参加して、全国の高校生を文化行事で歓迎し、原発問題で討論するなど大きな活躍をしました。教育フォーラムの一つに豊岡から平和を願う朗読劇の市民グループが上演参加したことも、参加者に感動を呼びました。

これらとりくみを通じて高教組と地元商店街をはじめとして、地域との結びつきが大きいたという点でも大きな意義をもちました。分科会に

はじめに、全教職員も多く、全国の力ももったレポートや討議に触発されたとの感想が寄せられました。いじめ事件をはじめとして教育現場での困難が注目される中、教育条件の抜本的な改善とともに、私たち教職員個々と集団としての力量を向上させることが求められています。

教育のつどいを大きく成功させたことを確信にするとともに、これを契機に高教組の教育研究活動や組織活動がいつそう広がることを期待されます。



渡辺あやさん 記念講演 (8/17開会全体集会)

藤波心さんトークショー — 3つの願い — (8/17開会全体集会)

藤波心さんは、自身のブログで原子力発電所撤廃を訴える、兵庫県内の高校に通う高校生タレントです。「高校1年、15歳です」との自己紹介に会場にどよめきが。インタビュアーの廣瀬さん(神戸市高書記・



地元ラジオ局FMわいわいラジオパーソナリティー)の軽妙な問いかけにもものおじせずきはきと答える、恐るべき15歳。藤波さんは、「3つの願い」をメッセージとして集会参加者に送りました。

子どもたちに教育の場で原発を語って

ほしい。私も福島事故が起こるまでは、考えていませんでした。でも、海外の番組ではすごい危機感を持って扱われているのに、日本ではずいぶん違うなと思った。とても大切なことなのに、きちんと伝わっていないと感じる。原発について学ぶ機会を教育現場でお願いします。

被災地の農業を救援するために、学校給食で野菜を食べるというやり方は間違っていると思う。それは政府や東電が責任を持って買い取るべき。被災地への支援のあり方も考えたいと思う。

いじめの問題が取りざたされているが、私もいじめにあった経験があるので深く考えさせられている。誰も他人事ではない。



先生たちに「いじめを解決して」とは要求しないけど、アンテナを張って、いじめられている子には、「嫌なら学校に行かなくてもいいんだよ」と言ってあげてください。

最後に藤波さんは、「日本の危機的な状況を救えるのは、教育ではないかと思えます。子どもたちの明るい未来のために、先生、どうかがんばって下さい」と会場に呼びかけました。

「教育のつどい - 教育研究全国集会2012 in兵庫」 初参加の記

今年1月末の県教研に初めて参加したが、それに続いて旧称全国教研改め「教育のつどい」に会場要員として初めて参加した。

8/17(金)晴 教育フォーラム「7.TPPで子どもたちの育ちはどうなる？」(16:15~19:00神戸市勤労会館405・406)の会場責任者に当たっていたので、午後から参加した(14:45打合せのところ渋滞のため30分ほど遅刻)。阪神高速を京橋ランプで降りると機動隊の姿があり、少し緊張する。このつどいのためかと思ったが、やはりそうであった。右翼、革マルの行動もあったとのこと。フォーラム会場にいる時、一時シュプレヒコール様の声も聞こえた。参加者が持っていた革マルのピラを読ませてもらった。他にすることがあるだろうに。巨大な権力とこそ戦えと思った。

TPPのフォーラムの担当者に、何人くらいの参加の見込みかと聞くと、「わからない」ということだったが、どんどん会場が埋まり、受付で100名を超えたとのことで驚いた。報告、発言も力のこもったもので、最初2時間4



5分は長いんじゃないかと思っていたが、むしろ足りないくらいとなった。このことと併せて、全体集会の参加者が2000人を超えたと速報で知って、当初の予想と比べて、組織率が低くなっているとはいって

ても、まだこれだけの力があるのだなと心強く思った次第である。このことは2日目の分科会に参加した時にも同じことを感じた。(1日目19:00解散)

8/18(土)晴 分科会「25 登校拒否・不登校の克服」(10:00~18:00兵庫県民会館303)に分科会要員として参加。車修理と受け取りのため、8:30集合のところ11:15着、16:00分科会全体会が終わった時点で辞す。



遅れたため、共同研究者の広木克行さんからの問題提起と協議の前半は聴くことができなかつた。教師が研修など出来ないほど多忙化にさらされていること、子どもたちが「先生忙しそうだから」と遠慮して近づいて来ないような現状、先生同士の離反・離間状況などの発言があった。

13本の報告書が用意されていたが、午後発表されたのはその内の1本のみ。「Kちゃんと6年1組」(京都市立祥栄小学校 小松伸二)。非常にいいに説明され、その中身は一事例であるにもかかわらず、小中高を含めて非常に普遍的な意義を持っており、驚くべきものであった。これは「生活綴方」の実践で、今なお取り組まれていることも改めて知ることができた。ただし、小松さんが言われたように、以前は(20年ほど前?)こういう作文の研究会がありますよとピラを配ると200、300と集まったものであるが、今は呼びかけると、職場の2~3名がパラパラと来てくれるくらいとのこと。現状がそのようなものであるとしても、このような実践が持つ意義と可能性の手応えが確かに伝わって来た。参加者90名超。1日目のフォーラムもそうであったが、年配の方が確かに多いが、20代と思われる若い方々もかなり参加しており、これも心強く思った。

参加費1000円で、これだけの実践と議論にふれることができ、また、大量の資料を入手することができ、これはもっともっと若い人中心に参加を呼びかけるに値する集会であると思った。私も完全引退間際の老体であるが、近隣府県で行われる時はまた参加する気になった。

(県立大学附属分会 梶田 清)



子ども参加の分科会「レインボーフェスタ」
ディベート「原発再稼働に賛成? 反対?」

青年レポーターを囲む交流会(8/16)



教育フォーラム 大阪「教育条例」で学校・教育はどうなる?(8/17)

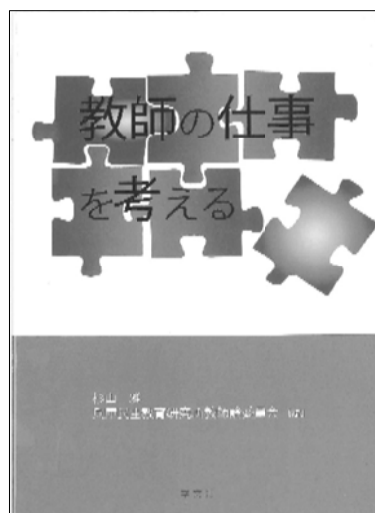


教師の仕事を考える

杉山雅、兵庫民主教育研究所教師論委員会

「席替え、私語、遅刻、掃除さぼり、携帯、頭髪・ピアス、行事、謹慎、不登校気味の生徒……」高校で教員をしていけば、日常的に関わらなければならない問題です。学校によっては、また個々の教員によっても、それらのことで多くの時間をさいて走り回っている場合もあれば、「単なる雑用」、「余分なこと」として適当にすませる、問題によっては「生徒任せ」、「見て見ぬふり」といった落差の激しい問題でもあります。この本はそうした日常的であり、悩ましくもある14の問題に対して兵庫民主教育研究所教師論委員会が32回にわたって検討を加えていった杉山さんの具体的な指導が紹介されています。

杉山さんは現在再任用の超ベテラン現任教員として日々の教育活動にとりくんでおられます。その基本的な視点は、



日常的に起こってくる課題について「多かれ少なかれ人格を傷つけられた子どもたちの悲しみや不満をまずは受容し、人格的に対等な関係を結ぶ」ことをめざす「受容と寛容」の教育であると、本書の「はじめに」で述べられています。そして本文ではそれが生徒やクラスに対するどのような言葉となり、働きかけになるかが紹介されています。それは「おわりに」の部分で述べられている生徒と教師のあいだの「約束と信頼の関係」づくりへとつながっていくものです。

私自身、杉山先生の豊富な実践から学んできましたが、この本はそのなかの珠玉の部分がコンパクトにまとめられています。青年もベテランもすべての高校教員に読んでもらいたい好著です。

(学文社 2012年8月、定価700円+税)、

紹介者：永井章夫(高教組副委員長 県立尼崎高校)

高教組本部に在庫ありますのでお問い合わせください